

# 県士会 ニュース

No.236

[2025.12]

Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —



## TOPIC 第20回神奈川県作業療法学会報告 ..... P. 3

|                                                |      |
|------------------------------------------------|------|
| 巻頭言 .....                                      | P. 1 |
| カナドラ！《県士会ニュース出張版》 .....                        | P. 4 |
| OTが知っておくべき制度情報コーナー（第14回目） .....                | P. 4 |
| 2025年度 第2回 地域事業支援会議 .....                      | P. 5 |
| 神奈川で繋がろう地域ミーティング<br>～集まれ！地域に興味があるOT～活動報告 ..... | P. 6 |
| 各部からの報告 .....                                  | P. 6 |

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 県士会サイトスペシャルコンテンツ紹介 .....    | P. 7  |
| 令和6年度 地域支援活動助成金事業実施報告 ..... | P. 8  |
| 理事会議事録 .....                | P. 9  |
| 学術部主催スキルアップ研修会 .....        | P. 12 |
| 事務局からのお願い .....             | P. 12 |
| 編集後記 .....                  | P. 12 |

## 巻頭言

### 医学モデルから生活モデルへ



一般社団法人神奈川県作業療法士会  
会長  
神保 武則

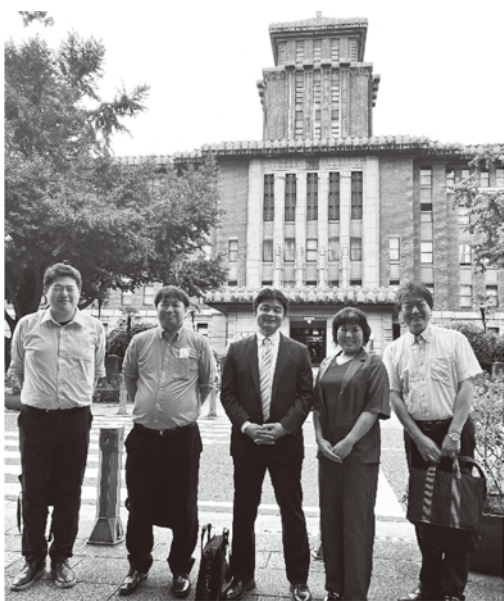
いつも大変お世話になっております。一般社団法人神奈川県作業療法士会の神保武則です。今年の夏は本当に暑かったですね。日本が赤道に近づいたようでした。関東エリアでも 40℃を超える地域もあり、『過去最高気温を更新』というフレーズが連日のようにニュースで飛び交っていました。そして、この巻頭言を目にするときは、きっと酷暑は過去となり、秋風の便りにホッと、紅葉や秋の味覚の話題が飛び交っているのでしょうか。

さて、当会は「成長する県士会」という永続的な Mission を掲げ、2023 年度からの 4 ヶ年計画として“共に創る未来”という目標を挙げております。私も当会の代表とし様々な領域に活動を広げ、作業療法（士）という専門職としての役割や貢献を伝えております。今年度も、神奈川県庁の健康医療局医療課には数回足を運びました。『作業療法とは何か』『作業療法士とはどんなことを専門とするのか』を丁寧に伝えてきました。顔を合わせること、互いが見える関係性を深めることに繋がる非常に

有意義な時間になります。さらに、医療専門職団体が多数集まる意見交換会でも『作業療法（士）という専門職の社会的役割や作業の意味』を伝え続け、また、神奈川県保険医協会や医師会などが開催する総会やレセプションにも声をかけて頂き、県内の医療体制の事情に触れる機会を通じて、リハビリ専門職としての処遇改善や物価高と診療報酬単価の話題を提供してきました。特に医療保険制度に関しては、国会議員の方々とも話す機会も頻回にありましたので、医療機関の厳しい赤字経営が続くことによるデメリットや迅速な対応を求め、さらに高齢化に対する地域ケア構想など早急な対策を伝えて参りました。“作業療法士の技能は国民の生活の質を豊かにする”と、じっくりと話をしてきました。神奈川県の作業療法士の皆様の将来を豊かにするためには、当会の会長として、我々の活動する土壌をもっともっと改良することが求められていると思います。そして、当会の更なる成長のためにも、今できることは積極的に実行していきたいと思っています。10 年先の我々が暮らしている地域に、今よりももっと作業療法士の理解が深まり、作業療法士の知名度が向上し、作業療法士が活躍する場が増えていることを期待しつつ、実現可能な地域社会構造を築いていきたいと、日々思い描いております。

2025 年の初夏、神奈川県健康医療局人材課の方から、「福祉子どもみらい局の相談を受けてほしい」との連絡を受けました。その後、当該局障害サービス課から「作業療法士の皆様のお力添えを是非とも頂きたい」という連絡

が入りました。急遽、三役で事の詳細を伺うため、神奈川県庁に訪問することに致しました。案件は、『県立中井やまゆり園を独立行政法人化（独法化）計画』とするため、作業療法士の知恵と協力を仰ぎたい旨の話でした。ご存じのように、県立の障がい者施設は長い歴史があります。そして、時代とともにその役割を果たしてきました。県立中井やまゆり園は、重度知的障がい者が入園しており、彼らも我々と同じようにそれなりに歳を重ねてきました。彼らのこれからの将来に向け、様々な可能性を見出すためにも「作業療法士の力添えが欠かせない」と、園の支援スタッフは、“意味ある作業”を作業療法士がアセスメントすることを求めており、作業療法士の専門性に関する一定の理解を示して下さっておりました。今までの“作業療法（士）説明行脚”の実績が一つの形として結ばれた…と思った次第でした。神奈川県庁の黒岩知事も特に力を入れて独法化を進める意向で、驚いたことに2026年4月1日に法人化設立に向けて準備をしている、という急を要する話でした。訪庁後、福祉子どもみらい局の当該課担当者を窓口に、県立中井やまゆり園を視察するためのスケジュール調整が行われました。



神奈川県庁 福祉子どもみらい局 訪問 2025年8月

視察当日は、午前10時から午後17時までの1日スケジュール。園長、副園長、生活担当課長はじめ、各ユニット責任者との対話を持つことができました。また実際の利用者の活動場面や昼食の様子なども見学させて頂きました。百聞は一見に如かず。思っていた以上に、現場の支援職員の高い意欲に共感させられ、入園者の多様性に富んだ様々な姿や実場面を見ることができました。生活支援者側からは「是非とも作業療法士に協力して頂きたい」と直接の声掛けを頂き、更なる高みを望む一歩を踏み出すために、我々作業療法士に対する大きな期待を真正面から受けることができた1日となりました。

県立中井やまゆり園に限らず、現在の地域や福祉領域に一歩足を踏み入れると、医療機関に在籍する私は、本来引き継がれる筈の医療や医学的な観点の違いに戸惑いや懸念を抱くことを覚えます。「人・ひと」と対峙する「人・ひと」の何とも言えない温度感です。私は、作業療法士の一人として、園長や副園長との対話の中で、『福祉領域の介護的支援をする「人・ひと」は、医療や医学の理解が疎になってきているのではないだろうか』と、切り出しました。プレゼンの中でも医療的情報の継ぎ接ぎが所々に見え隠れしており、介護的論点や視点の一助に適切さを欠いていないだろうか、と。支援者は「人・ひと」を共通に理解すること、すなわち、心身を把握するための状況把握が疎にならないようにすることが、福祉領域にとって大事な課題かもしれない、と。



神奈川県立中井やまゆり園 訪問 2025年9月

医療従事者の中でも作業療法士は「生活」と「人・ひと」をアセスメントすることを得意とします。個々の心身の障がい像やその状況は、医学的に説明できることが極めて多いものです。何故医学が福祉領域でも重要なのか。それは「人・ひと」が「生活」を作り出すための、様々な状況理解が備わっているからであり、個がもつ心身の機能や能力を理解することに繋がるからです。如何なる障がい像が個として表現されていても、その人として承認することができるこそ最良の医療従事者としての対峙であり、それが作業療法士であることを、お伝えいたしました。

我々作業療法士は、様々な局面において考えを深める機会があります。『そこに生活があれば、中核に作業療法士が存在を謳うことで、真のQOLの存在を確立できる』と。これからの福祉はもっと科学する時代です。医学モデルから生活モデルへのパラダイムシフトを現に感じつつ、これからの将来、作業療法（士）の役割は「生活圏」の中に浸透し、地域における作業療法士の役割は益々増えると確信に至ります。“共に創る未来”を描き「成長する県士会」として皆様方の多くの声を聴かせてください。私もまだまだ頑張りますよ。今後とも宜しくお願い致します。

## 第 20 回 神奈川県作業療法学会報告

第20回神奈川県作業療法学会

学会長 横浜南共済病院 中西理佐子

9 月 21 日、歴史的建造物である横浜市開港記念会館にて、「第 20 回 神奈川県作業療法学会」を無事終了することができました。今回は、県民公開講座を前夜祭として開催したため二日間にわたる学会となり、前夜祭には 86 名（一般参加者 57 名）、学会には 336 名（現地参加者 259 名）の皆様にご参加いただきました。

県民公開講座では、学会開催日が国際アルツハイマーデーであることに因み、「認知症とともに生きる」をテーマに北里大学の石智さんにご講演いただき、その後、ピアノのミニコンサートも開催し大変ご好評をいただきました。

記念すべき第 20 回学会では、作業療法を科学的に探究し（Science）、持続可能な（Sustainability）未来に向け、次世代に伝えたい作業療法の魅力をコンセプトにプログラムを構成しました。各分野で活躍される先生方をお迎えし、限られた時間ながら多彩な講演をいただきました。また、当事者の方や、日本 OT 学生連盟の大学生による発表もあり、多様な立場から作業療法を見つめ直す機会となりました。会場は常に熱気に包まれ、参加者の皆様が熱心に耳を傾ける様子が印象的でした。

さらに、チャレンジ発表を含む一般口述発表やポ

スター発表も、座長の先生方の素晴らしい司会進行により、対面ならではの活発な議論が行われ、参加者の皆様の作業療法への熱い思いを感じ、私自身が心を揺さぶられる場面が何度もありました。加えて、8 社の企業の協賛によりランチョンセミナーも開催され、多くの方々にご参加いただきました。

今回からの新たな取り組みとして、ご発表の成果を永続的に残すため、抄録は医中誌および J-STAGE に掲載されることになりました。そのため査読の先生方にもご協力をいただき、「神奈川県作業療法研究」第 15 巻 特別号として刊行することができました。発表者の皆様にとっては学術的業績となり、また多くの読者にご覧いただくことで、本県における作業療法の知の深化と普及に寄与するものと確信しております。

学会にご参加くださった皆様、そして 2 年間にわたり運営に尽力いただいた佐々木実行委員長をはじめとする運営委員の皆様、神奈川県作業療法士会の関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。記念すべき第 20 回学会が、皆様の作業療法士としての歩みをさらに豊かで実りあるものにするをお願いしつつ、これからも共に作業療法を盛り上げていきましょう。



# カナドラ！《県士会ニュース出張版》

## ～失語症患者様の自動車運転支援について～



神奈川県自動車運転に  
関するアンケートはこちら



ブログ版カナドラは  
こちら

制度対策部自動車運転班 山口 昌央

制度対策部自動車運転班のブログ「カナドラ」(下記QRコードよりブログチェックをお願いします)の県士会ニュース出張版第19回となりました。自動車運転再開の対象者は運動障害や高次脳機能障害を有する患者様であることが多く、失語症や視野障害を呈する患者様が対象となることもあると思います。特に失語症の方に関しては事故などの交通トラブルになった際に状況の説明が十分に行えない可能性があり、不利な立場になることや救急対応や要請が困難なことが考えられます。また、一般的に失語症のある患者様はない患者様に比べて社会参加や復職がより難しいといわれています。このような背景から、失語症のある患者様に対しての自動車運転支援はまた特段の配慮を要します。今回は、「失語症患者様の自動車運転再開支援」についてお伝えしたいと思います。

まず、脳卒中の方の運転能力評価の一般的な流れとしては、神経心理学検査を実施しドライブシミュレーター評価を実施していきます。車両の操作といった技量の面は運動機能・手続き記憶の関与が大きく、失語症の影響は殆どないといわれています。しかし失語症の方の場合だと書字や言語理解が困難であることから机上の神経心理学検査が円滑に行えないことがあり、高次脳機能の精査やドライブシミュレーター評価が実施できないこともあります。そのため、まずは失語症検査(SLTA)で文字認識・理解の程度を把握することが重要と考えられています。失語症の程度を把握したうえで、道路標識などの理解は良好であるのか、安全な運行に必要な情報を把握することができているかなどの理解力・読解力がある程度保たれているかを把握していくことが必要となります。言語は運転過程の様々な状況下でかかわってくるものであり、運転状況に応じて道路標識・目的地

の目印を理解し、予測しながら行っていくなどの認知処理速度が必要となります。

しかし他の高次脳機能障害を合併することもありますので、やはり高次脳機能障害に対しても精査をしていくことも大切になります。また、失語症の方に対しては神経心理学検査のみの結果だけでなく、ドライブシミュレーターを用いた運転評価及び訓練も有用と言われており、可能であれば自動車教習所での実車評価を実施することも非常に有効ともいわれています。

失語症の方の場合は、運転能力の有無だけで判断しきれないのが現状です。運転再開後の交通トラブルを想定し、ドライブレコーダーやコミュニケーションツール等の代償手段を用いて問題解決を図っていく事で失語症の方の運転再開に繋がっていくOTとして求められる役割になるのではないのでしょうか。

自動車運転再開を希望される方は、社会復帰やQOLの質向上に繋がることが多く、リハビリテーションにおいて重要な役割を担っていると感じます。失語症の方の運転再開を判断するうえで、まずは支援者側が少しでも失語症の程度や特性、運転に必要な能力の理解を深めていく必要もあり、その特性に適した支援方法を選択しその人らしい支援に繋がっていくのではないかと思います。

今年度も自動車運転班では、引き続き免許センターや教習所協会等の方々との連携を図っていき、皆様に情報発信できればと思っています。自動車運転に関わるご相談や共有事項があれば県士会自動車運転班宛にお気軽にご連絡ください!引き続き自動車運転班は、研修会・ブログ等での情報発信を行っていきますのでよろしくお願いします!!

## OTが知っておくべき制度情報コーナー

第14回目

### 人口減少・サービス需要の変化に応じたサービス提供体制の構築について

制度対策部 担当理事 佐藤 範明

こんにちは。制度対策部です。

本コーナーでは「作業療法士に関わる諸制度(法律)」を含め、皆様のお役に立つ法令などの情報を発信します。今回は「地域包括ケアシステム」に関する情報をお届けします。

団塊の世代が75歳以上となる2025年をめぐり、重度の要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築と推進が図られてきました。今後、2040年には65歳以上の高齢者数がピークを迎えるとともに、介護と医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口が増加し、現役世代の生産年齢人口の減少も見込まれます。そのため、どのように高齢者を支えていくかが課題となっています。

このような状況において、地域の人口減少やサービス需要の変化に応じて、全国を「大都市部」「一般市等」「中山間・人口

減少地域」の3つに分類し、それぞれの地域の状況に応じたサービス提供体制や支援体制の構築が求められています。

高齢者人口が2040年にかけて増加し続け、サービス需要が急増する地域(大都市部)では、ICTやAI技術など民間の活力も活用したサービス基盤の整備が重要とされています。

一方で、高齢者人口が増減し、サービス需要が2040年までの間に増加から減少へ転じる地域(一般市等)では、利用者に介護サービスが適切に提供されるよう、需要に応じて計画的にサービス基盤の維持・確保を図る必要があります。

神奈川県内には33の市町村があり、地域性も多様です。2040年問題に向け、作業療法士の皆様が自身の関わる地域の特色を理解し、必要に応じた柔軟な対応と適切なサービス提供を行うことが重要です。引き続き、動向を注視していきましょう。

## 2025年度 第2回 地域事業支援会議

2025年10月  
Vol.2

神奈川県士会版

### 地域で作業療法士が活躍できるために…

2025年度の第2回地域事業支援会議が、10月4日(土)・5日(日)に東京での現地参加とWebによるハイブリッド形式で開催されました。今回は初の試みとして、選任者・聴講者に加え、実践者の方々も新たに参加され、総勢170名に及ぶ大規模な会議となりました。当士会からは、地域社会振興部の佐藤部長・石川副部長らが選任者として参加しました。

会議では、地域共生社会において作業療法士が地域でより活躍していくために、行政との連携、地域ケア個別会議や通いの場での関わり方などについて、原点回帰や未来へと歩みを進める活発な意見交換が行われた1.5日間でした。

1日目は、山本会長からの挨拶に始まり、辰巳常務理事から「地域で活躍できる作業療法士を育成システムの構築に向けて」の発信、続いて、地域包括ケア推進班からは「OT参画実態調査の結果のご活用とご依頼」「医療から地域への取り組み促進事業の実践事例集の紹介」「市町村担当者配置モニタリング表入力の手引き」の紹介がありました。

安本勝博先生からの「行政とつながるために」では、政策や制度の理解を踏まえた具体的な実践紹介があり、作業療法士が地域住民に健康に寄与できるために、自立支援等の意味や定義を一人一人が深く考える機会となりました。

2日目は、佐藤孝臣先生より「原点回帰」をテーマに、国の課題に対して作業療法士がどのように応え、どのように活動を広げていくかについて熱い講義がありました。ゼネラリスト的思考の重要性や、新たな活動分野への挑戦と確立についての示唆に富んだ内容で、多くの参加者が刺激を受けた時間となりました。

第3回目の地域事業支援会議は令和8年2月15日曜日の午前、オンラインの予定となっております。

### 地域事業支援会議の報告（ワールドカフェ＆グループワーク）

#### 1. 行政とOTがつながるために（1日目）

行政は、法律を基盤として事業計画を策定し、政策を実行していくため、独自のリズムを持っています。OTも各市町村の事業計画を理解し、参画していくことが重要であるとお話がありました。また、OTが国民の健康にどのように寄与できるかを明確に示すことを強調され、組織として、取り組む意義と必要性を改めて感じる内容となりました。



安本勝博先生からの「行政とつながるために」の講義から出された問いに対し、全国から26名の現地参加者で行政との連携の糸口を考えるための少人数でのグループワークを実施しました。OTはプレーヤー、コーディネーター、マネージャーとして、どんな立場で支援をするのかなど幅広い視点で考えることの重要性が深掘りできました。

#### 2. 原点回帰（2日目）

「地域ケア個別会議で社会参加に繋げるためのOTの視点と伝え方」「通いの場が住民が主役になるためにOTができることとは」の2本をテーマに掲げ、意見交換が行われました。実践者を加えたWebでは、GWを通じて意見を深め、現地参加者は、知識やアイデアを共有・発展させる手法のワールドカフェを用い、多様な意見や視点を広げつつ議論を進めました。



2日目のテーマについて、現地参加者はそれぞれが地域支援事業を実践してきた立場から、社会参加に繋げるために包括的な視点を持つための実践的アイデアを出し合いました。また個～集団～地域をミクロ・マクロな視点で考え、支援者支援（黒子的役割）でOTは何かができるかなど作業療法士としての専門性を深く学び合う機会になりました。

### 編集後記

冒頭では山本会長より挨拶があり、現在の地域リハビリテーションでは認知症・こども・就労・メンタルヘルスがキーとなっており、特に認知症リハでは短期集中加算を新設したため、実践効果を出してほしいというお言葉がありました。地域社会振興部の辰巳理事からは、2025年度の重点課題である①行政地域事業参画に必要なマネジメント手法や市町村担当配置の促進②地域で活躍できるOT育成研修システムの構築について進捗報告がありました。2026年度も、地域で活躍できる作業療法士の育成システムの一部となる、地域事業参画者向け認定制度の運用が重点課題となっており、今後も協会と都道府県士会と協働で実施していく所存であるという報告がありました。来年度以降も引き続き地域社会振興部が担う役割や責任の重みを実感した会議となりました。

担当：地域社会振興部 副部長 石川恵美子

## 地域社会振興部主催

# 神奈川で繋がろう地域ミーティング ～集まれ！地域に興味があるOT～

## 活動報告

2025年9月24日、地域社会振興部人材育成班主催による「神奈川で繋がろう地域ミーティング」がオンライン形式で開催されました。平日の夜間帯にも関わらず、臨床現場で働く若手の方からベテランの方まで幅広い世代の作業療法士が県内外から参加し、総勢59名の作業療法士が集いました。

前半の講義では、遠藤副会長より「地域における作業療法士の役割と実践」についてご講演いただきました。リハビリ専門職派遣事業や地域ケア会議、難病教室、家族介護教室、認知症サポーター養成講座など、多岐にわたる活動について、経験談を交えながら、具体的にご紹介いただきました。また、横浜市主催のeスポーツ大会や「通いの場」における作業療法士の参画事例も取り上げられ、参加者にとって地域支援の新たな可能性を実感できる内容となりました。

後半は参加者同士が小グループに分かれて、地域で暮らす方々の「自立支援」をテーマに意見交換を行いました。グループ内ではさまざまな領域で働いている作業療法士が、それぞれの立場から日頃の取り組みや課題、地域支援に対する思いを共有する場となりました。また、「地域で生活する方に必要な支援とは何か」「復職を希望する方に対して作業療法士ができることは何か」といった具体的な内容の議論が展開されました。

今回の地域ミーティングは、地域で求められる作業療法士の姿を再確認するとともに、参加者同士がつながりを深める場となりました。今後も作業療法士が地域で活躍できるよう、具体的な実践例やコミュニケーション技法に関する研修会やミーティングを開催していければと思います。皆さまのご参加を心より願っております。

(報告：田中)

## 各部からの報告 / ▶学術部研究助成班

学術部研究助成班からのお知らせ

### 2025年度の研究助成事業の支給者決定

本年度の申請者は、研究Ⅰ（研究組織2法人以上の一般会員）が1名、研究Ⅱ（研究代表者は免許取得7年目以下で、研究組織は1法人以上）が2名の計3名でした。書類審査および合議審査の結果、下記の2名に対し助成金を支給することになりました。

学術部では全県士会会員に対し、積極的に研究を支援する体制を作っていきたいと考えております。来年度も研究にチャレンジしてみたい方、若手の方などの多くの応募をお待ちしております。

| 研究組織 | 氏名     | 所属                     | 研究内容                                                                     | 助成金額     |
|------|--------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------|
| 研究Ⅰ  | 青木 啓一郎 | 昭和医科大学                 | 狭窄性腱鞘炎に対するフロッシング介入の効果検証                                                  | 200,000円 |
| 研究Ⅱ  | 伊藤 拓人  | 済生会東神奈川<br>リハビリテーション病院 | 回復期リハビリテーション病棟に所属する作業療法士における脳卒中患者の復職支援:復職可否による支援内容の違いと後方施設を経由する事例の違いについて | 200,000円 |

(文責 学術部 佐々木)

# ウェブサイト管理班（広報部） 県士会サイト スペシャルコンテンツ紹介

県士会サイトでは様々な「スペシャルコンテンツ」が存在し、内容が盛り沢山です。今回はその内の1つ【マンガでわかる はじめての学会発表】を紹介し

ます。本コンテンツは、“これから学会発表を考えている方”、を支援するものです。若手にもわかりやすく、学会発表のノウハウをマンガを交えてお伝えしてい

ます。全8話ですが、イラストのみでなく、解説も記されており、大変わかりやすいです。

学会発表に挑戦したいけど、一歩が踏み出せない、まずは何から初めてよいかわからない方は是非一度コンテンツを開いて頂き、一読ください。

（文責 広報部 佐藤範明）

図)【マンガでわかる はじめての学会発表】閲覧方法（スマホVer.）



# 令和6年度 地域支援活動助成金事業

## 実施報告

研修会テーマ：

「作業療法士と学ぶメンタルヘルス@さがみはら」

開催日時：令和7年10月5日

開催場所：障害者支援センター松が丘園（相模原市）

団体名：ココロとカラダ@SAGAMIHARA

代表者：小砂哲太郎（国立精神・神経医療研究センター病院）

県士会ニュース2025.10（No.235）でも取り上げていただいた内容について、以下のとおり実施報告いたします。

OTエリアミーティング「県央エリア」でのつながりをきっかけに、相模原にゆかりのある作業療法士4名が集まり、神奈川県作業療法士会「地域支援活動助成金事業」の助成を受けて開催に至りました。さらに、相模原市社会福祉事業団の開設30周年記念事業としても位置づけていただき、共催という形で、市内各所への広報活動や当日の運営にも多大なご協力をいただきました。

当日は、市民・行政職員・専門職など、合計55名の方々にご参加いただきました。研修の目標として以下の3点を設定しました。

- ① メンタルヘルスについて理解を深めること
- ② 作業療法士について理解を深めること
- ③ 作業療法士との連携に自信を持てるようになること

まず、相模原市の精神保健福祉について、相模原市健康福祉局地域包括ケア推進部の熊谷直樹医師よりご講演いただきました。続いて、「作業療法士と学ぶメンタルヘルス」と題し、世話人の猿爪優輝（北里大学病院）、小砂哲太郎（国立精神・神経医療研究センター病院）より「依存症（アディクション）」を、村岡和也（横浜市総合保健医療センター）、川畑 啓（昭和医科大学烏山病院）より「成人期の発達障害」について、各施設での作業療法実践を交えてお話しさせていただきました。

さらに、本研修の目玉として、当事者2名にもご登壇いただき、ご自身の体験談や考えを語っていただきました。参加者からは大きな反響があり、盛会のうちに終了しました。

終了後のアンケートでは、「OTの果たす役割について理解が深まった」「当事者のお話は大変貴重だった」などの感想が寄せられ、当初設定した研修目標を概ね達成できたと考えています。また、今後取り上げてほしいテーマについても多くのご意見をいただきました。今回の研修を一度きりで終わらせることなく、地域に根ざした継続的な活動として発展させ、相模原市の精神保健福祉領域に貢献するとともに、作業療法士存在をより広く知ってもらう機会としていきたいと考えています。次なる構想についてはすでに検討段階に入っております。また紙面をお借りしてご紹介できれば幸いです。（研修の様子や参加者の感想などは、2026年12月に予定されている第7回神奈川県臨床作業療法大会にて報告予定）

（文責：川畑・小砂）



# 理事会議事録

## ★2025年度 第4回理事会 議事録 2025.7.25

日 時：2025年7月25日(金) 19:00～21:05

開催方式：対面開催

場 所：商業ビル「セルテ」8階 801会議室

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、奥原孝幸(副会長)、遠藤陵晃(副会長) 望月強併(事務局 長)、玖島弘規、澤口勇、神田崇央、佐藤範明、村仲 隼一郎、石川恵美子、佐藤隼、青木啓一郎

出席監事：錠内広之

欠席理事：佐々木秀一、野本義則、佐伯まどか、山勢健太郎、  
神保洋平

欠席監事：野々垣睦美

### I. 会長より挨拶

日本作業療法士協会初代会長の鈴木明子先生が昨日ご逝去された旨の報告がありました。大変残念なことであり、今までの功績は大変大きなものです。心よりお悔やみ申し上げます。

### II. トピックス

#### 1. よんばち報告(神保会長)

協会員＝士会員についての話もあり、結論から言うと三士会の同意が得られず、当初のスケジュール、内容で進めるのは困難な状況になった。その三士会は公益法人であり、各弁護士の見解も踏まえ上記のような結論となった。協会員＝士会員の実現は先延ばしになり、当面の間は県士会内で財務や会員管理を行う必要がある。

療養・就労両立支援指導料についても話題に挙がり、次回の診療報酬改定において作業療法士の職名明記を要望していく。まずは多くの作業療法士に研修会に参加して頂きたい。

#### 2. 神奈川県健康医療局 医療整備・人材課 県民ニーズ アンケートについて(神保会長)

神奈川県では県民ニーズを把握するためアンケート調査を実施している。作業療法士が参画または取り組めることを県士会として取りまとめ提案していく。

#### 3. 地域医療介護総合確保促進法に基づく意見募集について(遠藤副会長)

例年、意見募集がされているため当会としても意見提案をしていく。今年度は募集が終了しているため、次年度以降、提案していく。

### III. 審議事項

#### 1. 部員承認について

→賛成多数で承認。

#### 2. 持続可能な査読体制の構築に向けた県外査読者への委嘱について(奥原副会長)

投稿件数が増加傾向にあり、現在の査読者だけでは対応できない状況になってきている。そこで一定の条件を設けた中で県外査読者に委嘱することを承認頂きたい。

→継続検討。

#### 3. 査読体制変更に伴う規約変更について(神田理事)

→規約の変更については保留。県外査読者については部員ではなく、講師扱いとして対応できるか検討。

今一度、扱いについて再度検討する。

#### 4. 神奈川県病院学会名義使用について(事務局)

→賛成多数で承認

#### 5. 第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会の後援依頼について(事務局)

→後日メール審議を行う。

### IV. 理事会報告事項(各部署・理事・三役)

#### 1. 選挙WG開催報告について(田中副会長)

2024年度役員選挙の振り返り及び2025年度代議員選挙に向けた規程、マニュアルの見直しを行なっている。9月の理事会において規程、マニュアルの提案ができるよう進めていく。

#### 2. ウェブ個人情報取り扱いについて(遠藤副会長)

ホームページ上に部員の氏名及び所属先が掲載されている状況。理事や代議員の掲載は必要であるが、他の部員については基本的には掲載しないようにしたい。掲載する場合は本人の同意を得てから掲載する。

#### 3. 会員管理システムについて(事務局)

理事からの意見をもとに事務局内で検討していく。9月の理事会で提案できるよう進めていく。また会員のメールアドレスの聴取については近日中から開始できるよう準備する。

#### 4. 理事情報共有システムについて(事務局)

現在、メーリングリストで情報共有を行なっているが、情報共有の効率化を図るためSlackを活用していく。

#### 5. 事務局員採用について(事務局)

1名採用が決定し、7月末から勤務予定。

#### 6. 新入会員オリエンテーション開催の報告について(澤口理事)

研修会に参加してくれた会員がオリエンテーションにも参加してくれた。とても和やかな雰囲気で開催できた。

#### 7. 県学会県士会ブースについて(澤口理事)

#### 8. 県学会・臨床作業療法大会進捗報告について(青木理事)

##### ①第20回神奈川県作業療法学会進捗状況

予算案について報告があり、事業費の範囲内で遂行できる予算案となっている。一般演題抄録は7月頃ホームページに掲載予定である。講演を録画しオンデマンドで配信予定となっている。機器展示は現在4社確定、最大6社を予定し、企業広告も募集開始予定であり、助成金は3団体すべて不採択となった。カフェコーナーは会場近くの作業所に打診中。

##### ②第7回神奈川県臨床作業療法大会進捗状況

会場が神奈川県立保健福祉大で仮予約まで済んでいる状況。現在は委員会のメンバー補充と内容の検討を進めている。

#### 9. 対外広報報告について

##### ①川崎市麻生区認知症当事者と家族の会について(佐藤隼理事)

講演会と座談会で構成されており、座談会ではご家族の思いが表出、共感されて継続的な参加意向が開かれる機会であった。

##### ②小中高生向け活動について(佐藤範明理事)

8月1日～9月25日まで希望者にオンラインによる施設見学会を実施予定。

## 10. 臨床実習指導者講習会協議会報告について(村仲理事)

課題としてOTPTの臨床実習指導者講習会の参加条件として、ここ数年は多職種の参加を認めていなかった。近年では一部定員割れも発生する状況となっているため参加形態を検討する。

結論として、令和8年度より臨床実習指導者講習会の参加募集において、10%の他職種の参加を認めていく。

## 11. OT協会地域社会振興部 2025年第1回地域事業支援会議報告について(石川理事)

日本作業療法士協会の事業報告、協会地域社会振興部の副会長による協会における地域人材育成に関してや地域支援事業参画のための士会マネジメント事業に関する説明がなされた。また市町村担当者配置事業からの2025年3月の報告として全国で71.9%という配置率となったという報告がされた。会議後半には出席者172名をグループに分け、それぞれの都道府県別の現状・課題や、協会への要望などの話し合いがなされた。

## 12. 制度対策部 生活環境支援推進室の事業一時停止について(佐藤範明理事)

日本作業療法士協会生活環境支援推進室の事業が一時的に停止していた。現在は「福祉用具相談支援システム」、「生活行為工夫情報事業」、については再稼働となっている。また情報があればホームページに掲載していく。

### 【その他報告部署・理事】

## 1. 第21回神奈川県作業療法学会学会長推薦について(神保会長)

木下 剛氏(湘陽かしわ台病院)に打診し内諾を得た。  
→賛成多数で承認

## 2. 令和7年度第1回神奈川県在宅医療推進協議リハビリテーション部会報告について(田中副会長)

渉外報告書で共有。

## 3. 早稲田議員との会談について(神保会長)

超党派で高次脳機能障害支援関連の法案に携わっている衆議院議員から当会の活動や高次脳機能障害者への取り組みについて会談したいとの話があったが、先方の都合でキャンセルとなった。今後対話する機会があれば対応していきたい。

## V. 監事より

会としては、時間通りに進行できていて良かった。しかし各事業の進捗状況については不透明な部分もあったため、事業内容が共有できる場にしてもらいたい。

以上

(文責：玖島弘規)

## ★2025年度 第5回 理事会 議事録 2025.9.27

日 時：2025年9月27日(土) 13:00～16:00

開催方式：対面開催

場 所：商業ビル「セルテ」9階 901会議室

出席理事：神保武則(会長)、田中ゆかり(副会長)、奥原孝幸(副会長)、遠藤陵晃(副会長)望月強併(事務局長)、野本義則、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、佐藤隼、佐藤範明、山勢健太郎、村仲隼一郎、佐伯まどか、石川恵美子

出席監事：錠内広之、野々垣睦美

欠席理事：玖島弘規、澤口勇

## I. 会長より挨拶

先日、第20回神奈川県作業療法学会が盛況で終わりました。御礼申し上げます。今回の理事会では、8・9月に行った行政との関わりについての報告もあります。

## II. トピックス(報告)

### 1. 代議員選挙について(選挙WG:田中副会長、選挙管理委員会:池田氏)

選挙管理委員会池田氏より変更点、スケジュールについて説明。

今年度は推薦書の書式変更を実施。メールでの立候補受付を検討したが、規約の変更が必要であり、総会にて承認を得る必要がある。そのため変更については継続して検討していく。

### 2. 神奈川県立中井やまゆり園について(神保会長)

県庁訪問をきっかけに神奈川県福祉みらい局より、神奈川県立中井やまゆり園の立て直しについてOTの力を借りたいとの依頼があった。三役での対応結果を踏まえ、これまでの意見交換の内容について共有した。

9月29日に現地を訪問予定(会長、副会長、事務局長)。

### 3. 県民ニーズアンケート調査結果からの今後の県庁との関わりについて(神保会長)

県民ニーズアンケート調査を踏まえた関わりについて、理事からの意見集約を行なった。

OTの強みとしてMTDLPの生活に対してのマネジメントがあり、MTDLP指導者の活用もできるのではないかと。県庁の期待として、生活に対してのアプローチがあり、OTの専門性が出せる領域。県士会として新組織体制の中で、MTDLP推進育成課や地域社会振興部と連携して進めていけるよう検討していく。

### 4. 立憲民主党政策要望ヒアリングについて(神保会長)

早稲田議員から高次脳機能支援法のつながりで、県士会にお声掛けがあり。会長から当日のヒアリングの内容について説明。(別紙参照)

## III. 審議事項

### 1. 人事考課・昇給制度について(事務局)

→賛成多数で承認

### 2. 会員管理システムについて(継続審議事項:事務局)

3社からヒアリングを実施した(別紙参照)。  
会員管理システム導入の可否について審議を実施。  
→賛成多数で承認

### 3. 神奈川県保険医協会からの後援依頼(事務局)

→賛成多数で承認

### 4. 地域社会振興部からの部員申請(事務局)

→賛成多数で承認

### 5. 査読者選定内規について(規約部・学術部)

→賛成多数で承認

### 6. 研究助成事業について(学術部)

3件の募集があり、研究助成班において2件を採択した(別紙参照)。  
→賛成多数で承認

### 7. MTDLP推進育成課における事例検討会発表者に対する指導添削に係る通信費計上について(教育部:村仲理事)

→賛成多数で承認

#### Ⅳ. 報告事項(各部署・理事・三役)

##### 1. 理事内情報共有システム(Googleworkspace)について(事務局)

非営利団体として登録済み、今後の方向性について資料を用いて説明。10 月中に理事も登録し、使用する機能を選定していく。

##### 2. 事務局員募集について(事務局)

9月22日より1名入職。7月に入職したスタッフは退職。

##### 3. スキルアップ研修班・福祉用具班コラボ研修会企画について(学術部・制度対策部)

コラボ企画として研修会を実施予定。研修会日程調整中。講師は地域社会振興部濱口氏を予定。

予算は学術部で計上。講師は地域社会振興部部員のため、地域社会振興部もコラボしていくか検討。

##### 4. 第20回神奈川県作業療法学会 速報(学術部学会支援課)

9月20日 一般57名、OT29名、合計86名が参加。

9月21日 登録者336名、当日参加259名、当会会員216名、他県士会31名、他職種6名、学生52名が参加。次回理事会で最終報告を実施。

##### <佐々木理事>

現在オンデマンドで全プログラム配信中。10月中まで視聴可能。機器展示は 7 社から応募があり、30万円の収益があった。それをランチョンセミナーのお弁当代にあてた。Confit のシステムは良いが設定は自分たちで行うため今後検討は必要。

##### <野本理事>

県士会ブースについて、次回福利部から報告予定。

##### 5. 基礎ポイント付与について(教育部)

協会と士会の認識に齟齬があった。MTDLP 事例報告において、これまで当士会では参加と発表に対し2ポイントずつ(計4ポイント) 付与していた。しかし、協会の指定する基礎研修ポイント規定の詳細とは合致せず、ポイントが付与されないことが判明した。したがって、この件の周知を県士会ウェブサイト、研修会当日のアナウンスを通し周知していく対応を行っていく。

##### 6. 5歳児健診への作業療法士参画に関する意見交換会について(地域社会振興部)

資料を用いて説明。

##### 7. 国際福祉機器展「ふくしの相談コーナー」への部員派遣について(制度対策部)

10月8日～10月10日に開催予定。福祉用具班で対応する。

##### 8. 神奈川県精神障害者スポーツ大会について(事務局)

昨年度承認事項について昭和医科大学古賀氏より報告。今後継続して参画していく場合は、地域社会振興部で参画を検討。

##### 【その他報告部署・理事】

##### 1. 広報部

オンライン施設見学会を募集したが応募は0件。今後、広報の方法等も併せて検討中。

##### 2. 制度対策部

災害の安否確認システムが現在運用中。GoogleFormの入力をお願いしたい。

##### 3. 田中副会長

OT 協会より倫理委員会の設置についての研修会が実施。詳細については議事録と合わせて今後報告予定。

#### Ⅴ. 監事より

各部署、資料を基に進捗状況について報告。

##### <神保会長>

5 月の定期社員総会で組織改編を実施。本格的に動き始めるのは下半期になる。

人材育成・エリア化の運用を検討していく必要がある。

##### <神保洋平理事>

学生会員について誰がコーディネートしていくのか。

##### <望月事務局長>

昨年度のワーキングでは、福利部に位置付ける方向になっていた。

今後の方向性として、学生会員については、学生会員も会員であり、昨年度のワーキング内でも福利部事業として実施していく予定であった。福利部内でも学生会員に対応していく班構成などを検討が必要。

事務局を含めた検討を、会員ワーキングで検討していく。

学生会員の特典も打ち出せるように検討が必要。

##### <佐々木理事>

学術部の研修会参加費について。

現在 1000 円、Zoom になったことで経費が少なくなっているため、安い金額の設定としている。

県外からも参加できており、今回の精神科の研修は参加者 180 名を見込んでいる。

今後の研修会費の設定はどうしていけばよいか意見を頂きたい。現状は講師の人数や時間に関係なく値段設定がされている。

→収益やスリム化など多方向から検討をしていく必要がある。

##### <佐伯理事(野本理事)>

エリア化の動向について、エリアミーティングの目的が不明確なため、参加しにくいのではないかと。

##### <村仲理事>

MTDLP 事例検討会 3 名、基礎研修 30 名前後の参加予定となっている。

##### <石川理事>

地域社会振興部の事業が多く上半期で把握している状況。

#### Ⅵ. 監事より

##### <野々垣監事>

担当部署以外に介入できない状況から、組織内での議論が出来るようになってきている。

視点が増えていく中で次年度の計画に反映できるように取り組んで頂きたい。

##### <錠内監事>

県士会の課題は時代のニーズに合わせて増えていく。一番の課題はウェブと認識している。

現在の運用は一部の部員に負担が集中しており、県士会の体制としても変更を検討する必要がある。

作田氏の功績に感謝しつつ、今後の対応を検討して頂きたい。

以上

(文責：事務局長 望月 強併)

# 学術部主催スキルアップ研修会を オンラインで開催しました。

2025年10月19日、信州大学医学部附属病院の塚越大智先生をお招きし、「急性期作業療法の役割－ICUにおける臨床的可能性と多職種連携－」をテーマにご講義いただきました。

先生からは、ICUにおける救命後の社会復帰を見据えた作業療法のあり方について、エビデンスに基づいた実践と豊富な症例をもとにお話いただきました。

早期離床だけでなく、ICUダイアリーの活用やせん妄予防、限られた環境の中で生活の視点を持ちながら能動的な活動をどう支援できるかといった工夫が、患者の社会復帰や家族の安心につながることを改めて感じました。

急性期だからこそ作業療法の意義が大きく、他職種との連携や医学的知識の深化が欠かせないことを実感できる、非常に有意義な時間となりました。塚越先生に心より感謝申し上げます。



## 事務局からの お願い

- 届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)
- 休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに ①『休会届』と ②『証明書』を郵送でご提出願います(**FAX不可**)。
- 退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います(**上記日必着**)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式**ウェブサイト**のINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

## 編集 後記

秋口までの酷暑が嘘のように寒くなり、今年もあっという間に年末を迎えようとしています。私自身日々の業務に追われがちですが、県士会ニュースの記事を読むと、改めて作業療法士について気づきと学びが多いなと感じます。来年からもこの広報紙が皆様のお役に立つと嬉しいです。(えり)

## 一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース〈236号〉2025年12月発行(年5回発行)

発行責任者 神保 武則  
編集責任者 野本 義則  
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学小田原  
保健医療学部 作業療法学科)  
山岡 光(湘南慶育病院)  
佐藤 愛(悠の木株式会社)  
丸岡ひろ(済生会横浜市東部病院)  
松井 洋鷹(刈野辺総合病院)  
碓屋 瑛理(佐藤病院)  
印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011  
横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル 301号  
TEL/FAX: 045-663-5997  
月火水木金 10:00~15:00  
メールアドレス: jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト  
https://kana-ot.jp  
➡ 作業療法 神奈川 検索



Facebook https://www.facebook.com/kaotwebkan  
X https://x.com/kaotwebkan